

E-9 メゾネット型高層集合住宅における住まい方
大谷女子短大 ○ 菊沢康子

目的 3DKおよび4DKのX型メゾネット形式の高層集合住宅において1階と2階の居室が、どのように使われているか、および、居住者はメゾネット形式の特徴をどのように感じているかを調べることを目的とした。

方法 大阪市内にあるX型メゾネット形式をもつ中津リバーサイドコーポ全戸868戸(3DK 644戸, 4DK 224戸)を対象とし、アンケートによる質問紙法により、昭和46年7月に調査し、294戸(うち3DK 225戸, 4DK 69戸)を回収した。

各戸は、北側及び南側に面した部屋を2室ずつもち、そのうち1室は、南側にベランダのある部屋である。浴室および便所は2階に、DKは1階にあるまたは、各戸共通である。

結果 上、下階の住み方の傾向は—子供室や寝室として上階を、居間には下階を、老人の部屋は、どちらかといえば下階をあてているが、客間は上、下が半々位である。

メゾネット型の特徴として居住者が認めているのは—長所には(1)部屋が上下で完全に独立してプライバシーが保てること、(2)上階と下階で気分がかわること、(3)窓が4部屋にあることを順にあげるものが多く、短所には、(1)上下移動が疲れること、(2)上、下で音が聞えにくいこと、(3)浴室が2階にあるのが不便であることを順にあげるものが多いことがわかった。